

令和5年度 学校総合評価

1. 今年度の重点課題に対する総合評価

令和5年度は、6項目の重点課題を設定して目標達成に向けて取り組んだ。A（達成した）が0項目、B（ほぼ達成した）が3項目、C（現状維持）が3項目という評価となった。今年度、5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行されることになったものの急激な行事の実施方法の変更も難しく、一学期いっぱいには行事の縮小や教育活動の制限もやむを得ず、二学期以降の行事をコロナ禍前に戻す方向へと少しずつ舵取りするしかない状況であったことは否めない。

昨年度より新校長体制となり今年度も引き続き各方策に取り組んだ。各分掌のアクションプランについては次ページ以降に記載するとおりであるが、重点課題と達成度の概要は以下のようになる。

教科指導については、旧学習指導要領である3学年と新学習指導要領の1・2学年が混在する最後の年度となったが、職員の大半が「観点別評価」に携わる状況となり、観点別の取り扱いについての情報交換や次年度に向けての研修を行うなど教員の意識の向上も見られた。

宗教教育については、概ね計画通りに行事を実施することができた。二学期からは、全校生徒が一堂に会して厳粛な雰囲気の中、礼拝行事も行えるようになった。教員や生徒の講話は、各自しっかりと事前準備をし、生徒達の琴線に触れる話を提供する場となっている。

進路指導については、予定していた進路行事や研修を実施することができ、3年の進路決定、1・2年生の進路意識の向上につなげることができた。

生徒指導については、大半の生徒は、さわやかな挨拶や清潔な身だしなみ、余裕を持った行動を心がけていた。しかし一部において、規範意識に欠ける行動がみられた。

特別活動については、生徒会執行部を中心として、校紀・美化・福祉の各委員会活動を活性化させることができた。1学年「文化祭展示発表」や2学年「修学旅行事前学習」をとおして生徒たちのSDGs活動への意識が高まり、学校生活においても生徒会執行部を中心とした新たな提案に協力する姿が見られた。

環境と健康指導については、当初の方策は概ね達成できたが、清掃活動のさらなる徹底や健康診断後の受診勧奨に向けての喚起を図らなければならない。

2. 次年度へ向けての課題と方策

具体的な課題と方策については、各分掌のアクションプランに記載されているが、全体として特に次の点を考慮して策定していく。

- ・新学習指導要領施行3年目で全学年となるため、2年間実施してきた「観点別学習状況の評価」の仕方を最終点検し、学力の向上につなげるための「授業と評価の一体化」を推進していく。
- ・生徒および教職員が生き生きとした学校生活を送れる学校作りのため、前例主義にとらわれず新しいアイデアを取り入れていく。
- ・達成目標については、教職員が一体となって取り組んでいけるものにし、できるだけ具体的で明確なものとする。評価方法については数値化できるものは数値を記載する。